

ミャンマー国 スターピン孤児院 米支援の経過

1998年頃 個人旅行で赤松会員が、友人とミャンマー国へ観光旅行（現地日本人経営の旅行社に依頼）
ミャンマー市内及びバガン遺跡観光（12～13世紀に栄えたバガン王朝、バガン平原に約
5000ヶ処の仏教遺跡群その内2000ヶ処修復済）

※民間からの寄付で金額に見合った遺跡修復の場所を選定できると現地で確認をする。

2001年度 横手会長の時 世界社会奉仕委員長（赤松会員）
バガン遺跡修復を思い出し当時約30万円（当クラブ予算）でレンガ造り平屋建て僧院を修
復する。

2001年9月・・・場所選定（通訳付き）9月

2001年11月・・・建設中確認（ガイド付き）

2002年2月初旬・・・落慶法要、近在の坊主4人、住民多数を呼び執り行う、その後お寺
にて昼食の接待を受ける。参加10数名（ガイド付き）
ヤンゴン観光の時、孤児院が市内に沢山存在するのをガイドより聞き、
落慶法要に参加したメンバーが相談をして国立男子孤児院（150名
程）に米、豆、飴等約1tをプレゼント（7万円程個人負担）

※修復迄都合3回ミャンマーへ行く（個人負担）

映像参照) <http://www.takamatsu-north-rc.jp/01.wmv>

2006年度 関子会長の時 世界社会奉仕委員長（黒田会員）
インターネットで“ヤンゴンナウ”の西垣氏（現地旅行会社）と知り合い、以後西垣氏に孤
児院（スターピン孤児院）を紹介してもらう。

2006年10月頃・・・バガン遺跡修復の場所選定に3名行く（予算70万円程）

2007年2月・・・落慶法要に10数名で参加する。

ヤンゴン市内から東南約20km、スターピン孤児院を訪問する。
孤児の数、約180名寺の中にトタン張りの寄宿舎と教室があり○才児
～20歳迄が共同生活を送っている。

入院する子供は必ず坊主が両親と面接をし、寺及び孤児院の維持管理
は住民の喜捨にて賄っているようである。又、優秀な孤児は近在の篤
志家をお願いして大学の学費を出して貰っている。

我々が訪問すると、入口から講堂まで両側に子供達が合掌して出迎えて
くれる。（感激します）

米5t、お菓子、折り紙等をプレゼント、子供たちと折り紙の折り方
を教えながら交流をはかり、半日程で寺院を後にする。



2008 年度 増田会長 世界社会奉仕委員長（松岡会員）

2009 年 2 月 スターピン孤児院訪問

米 5 t、お菓子、折り紙、セカンドハンド（ダンボール箱 15 箱）等
プレゼント、子供たちと交流、半日交流、



2009 年度 八田会長 世界社会奉仕委員長（池田会員）

“ヤンゴンナウ”西垣氏にお願いして米 5 t をスターピン孤児院にプレゼント

2010 年度 対馬会長 世界社会奉仕委員長（荻田会員）

2011 年 1 月 スターピン孤児院訪問予定（現在計画中）